

九九九二

大正四年六月七日

德島縣知事 末松偕一郎

文部大臣法學博士 木喜徳郎 殿

本年四月職甲第二五〇号内訓ニ基キ
調査候處左記ノ者文化風教上貢獻
セシ功績顕著ノ者ト被認候間相當
恩典ニ浴セシメラレ候様篤ク未詮議相
成度別紙事績調書相添へ此段
内申候也
記

德島縣

故 小出長十郎
故 集堂安左衛門
故 高良齋
以上

関流算法、宗統ヲ經ル日下貞八郎、則ニ此ニ定テ
 上班ニ在リ、曆書ヨリ若シテ陰陽頭、字頭ニ奉テ
 ニル實地天象ノ觀測ニ從事シ、官曆ヨリ刻々差ヲ
 ルヲ究見シ、天保十一年正月、日蝕註ニ月ノ蝕ヲ預
 測シ、實際ニ符合ス、其外、曆書ヲ翻譯ス、
 世心ニ其業ニ志ス、文政初年、依リ贈正五位、可也

御所字紙藏丁士族

小出長十郎

寛政九年八月生

長十郎、名ハ兼政、字ハ修喜、父ヲ利兵衛ト云フ、徳
 島藩、代官手代タリ、幼ヨリ穎悟、九歳ニシテ算
 數ニ志シ、師ニ就キ、學ブコト、六日ニシテ八算見、
 法ヲ知ル、文化十四年、江戸郎吏、恒川徳高國
 ニ歸ル、徳高ハ宮城流算法ヲ以テ名アリ、長十
 郎、其門ニ入り、二年ニシテ、其技大ニ進ミ、允
 可皆傳ヲ受ク、時ニ年廿七ナリ、是ニ於テ四方
 ニ遊學セント欲シ、遂ニ職ヲ辞シテ、江戸ニ出テ

小出長十郎

事績調書

徳島縣名東郡富田浦町字紙藏丁士族

故 小出長十郎

寛政九年八月生

長十郎名八兼政字八修喜父ヲ利兵衛ト云フ徳島藩代官手代タリ幼ヨリ穎悟九歳ニシテ算數ニ志シ師ニ就キ學ブコト六日ニシテ八算見一法ヲ知ル文化十四年江戸郎吏恒川徳高國ニ歸ル徳高ハ宮城流算法ヲ以テ名アリ長十郎其門ニ入り二年ニシテ其技大ニ進ミ允可皆傳ヲ受ク時ニ年廿七ナリ是ニ於テ四方ニ遊學セント欲シ遂ニ職ヲ辞シテ江戸ニ出テ

小出長十郎

日下貞八郎ノ門ニ學ブ貞八郎ハ關流ノ
宗統ヲ継ギ名聲尤モ高シ其徒ノ名士長谷
川善左衛門和田月象内田彌太郎等アリ
長十郎其上流ヲ占ム毛利甲斐守三十
人扶持ヲ給シテ其教ヲ受ク因州侯及松本
藩主ノ如キ亦其門ニ入ル江戸ニ在ルコト十
有五年遂ニ宮城最上和田諸流ノ蘊奧ヲ究
メ名聲益々高シ因州侯三百石ヲ以テ聘セント
欲シ徳島藩ニ謀ル藩需メニ應ゼズ天保八年
三月内番人ニ擧ケラレ後ニ徒士トナル其江戸
ニ在ルトキ芝増上寺ノ僧普門ト云フモノ曆學
ニ長ズルヲ聞キ之ニ師事スルコト久シク頗ル曆
學ニ通ズ當時官曆ハ曆象考成ヲ基トシ

別ニ消長法ト名クル法ニ依リテ諸數ヲ増減
シ以テ之ヲ定メ司天臺ノ極秘トナセリ長十郎
其法ヲ知ラザルヲ以テ大ニ之ヲ恨トス然レ氏司
天臺ニ非ザレバ之ヲ知ルニ由ナキヲ以テ乃チ土
門家ノ門ニ入り研究スルコト數年師範代ニ
擧ケテレ遂ニ其法ヲ授ケラル之ニヨリテ丁酉元
曆十六卷ヲ著シ之ヲ献ズ陰陽頭從二位深
ク之ヲ賞シ同家秘書ノ列ニ加ヘ準學頭ニ進
メラレ此ヨリ實地天象ノ觀測ヲ企テ之ヲ曆
面ニ比較對照スルニ官曆ニ一刻ノ差アルヲ發見
シ消長法ノ用フルニ足ラザルヲ覺リテ整舊革
シト欲シ寐食ヲ忘ルルニ至ル是ヨリ先幕府ハ譯官
ニ命シ蘭書ヲラランデ曆ヲ翻譯シ之ヲ五星

新考曆書ト名ケ將ニ成ラントスルニ方リ長十
郎之ヲ聞キ幕府ノ司天臺渋川氏ニ就キテ其
傳授ヲ乞フテ許サレズ乃チ原本ニ據リテ自ラ翻
譯センコトヲ乞ヒ漸ク之ヲ許サル天保十年八月日
帶蝕アリ實象大ニ曆面ニ違フ此時長十郎江
戸ニ在リ其自ラ推測セルモノ悉ク天象ト符号スルヲ
以テ翌年正月ノ日蝕及二月ノ月蝕ヲ推測シ之
ヲ證トシ官曆ノ差違ヲ論ゼル小冊子ヲ著シ蜂
須賀齊昌(第十四世)ニ乞フテ之ヲ幕府ニ上ラン
トシテ許サレズ切ニ之ヲ請フテ止マズ齊昌尚ホ
之ヲ疑フ長十郎死ヲ以テ之ヲ誓フ仍テ江戸
留宇居立花某ヲ以テ老中水野越前守ニ上
ラシム越前守之ヲ嘉シ翌年正月特ニ褒詞

ヲ賜フ會々二月月食アリ此夜藩主齊裕(弟
十五世家臣十二人)命ニ長十郎ト共ニ鍛冶橋
内郎ニテ其實象ヲ檢セシメシニ官曆ノ時刻ニ至
ルモ果シテ蝕セズ長十郎ノ推測セシモノ衆心ヲ符
合セリ初メ長十郎カ死ヲ以テ誓ヒシ推測ノ實地
ト符合セザルニ於テハ藩主亦傲ス能ハザルヲ以テ臨
檢ノ諸士皆之ヲ慶フ然ルニ其違ハザルニ及ビテ衆
皆之ヲ賞揚セリ之ヨリ長十郎ノ名一藩ニ轟ク
天保十三年改曆アリ九月勅使土御門ノ邸ニ
臨ミ改曆全部及ビ之ニ関スル書類ヲ下シ賜フ
長十郎カ先ニ幕府ニ上ルモノ亦此内ニアリト
云フ偶々改曆ノ命アルニ方リ意ヲ決シテ「ララン
デ」星曆書ヲ翻譯セント欲セシモ如何ニせん當
時舶載ノ甚ダ稀ニシテ官府ノ書庫ノ外復タ
此書アルヲ聞カズ齊昌長十郎ノ志ヲ嘉シ家臣
ニ命ジテ之ヲ搜索セシム後八年ヲ經テ嘉永二年
ニ至リ其書ノ長崎ニアルヲ告グルモノアリ則チ寶ヲ齎
ラシ之ヲ購ハシメ藩医高島耕齋ニ命ジテ翻譯
ヲ助ケシム茲ニ於テ長十郎ノ宿望ノ成ルヲ喜ビ養
子由岐左衛門ニ命ジテ耕齋ト共ニ翻譯ニ從
事セシメ日夜相繼ギ二年餘ニシテ始メテ成ル
是ニ於テ復タ新曆ノ傳授ヲ乞ハズ其自ラ發明
スル所ノ書ヲ司天甚ニ上レリ初メ淡川氏ニ「ララン
デ」曆書ヲ翻譯センコトヲ請フヤ淡川密カニ人
ニ語リテ曰ク此業固ヨリ難事ニシテ一私人ノ企テ
及バベキ所ニアラズ且ツ貧賤淺學ノ者何ゾ能

ク其望ヲ達スルヲ得ンヤ狂ニ非ズンバ愚ナリト蓋シ
幕府ノ此書ヲ譯セシムルヤ之ニ從事スルモノ少ク
モ十餘年ヲ經テ漸ク其業ヲ了ス然ルニ單獨
ニシテ且ツ僅年克ク其志ヲ達成セシ長十郎ノ
苦心計營又々想像ニ餘リアリト云フベシ晩年
土御門家ノ職ヲ辞シ養子由岐左衛門ヲ薦
メテ之ニ代ラシム慶應元年八月病ヲ没ス時二六
十九

長十郎星曆算數ノ學ヲ以テ名ヲ梅内ニ馳
セ終ニ能ク諸家ノ長ヲ採リ小出流ヲ創メ子
弟ヲ教養スルモノ頗ル多シ其最モ著ハルモノ
大阪ニ福田理軒、福田美濃、武田正之進、安
達巖アリ京都ニ加藤政助、樋口貞八郎アリ

仙臺ニ佐藤直之助アリ而シテ徳島藩ニ山本
栞齋、北野由岐左衛門、有井範平、阿部有
清等アリ著ハス所ノ書亦頗ル多シ就中新
曆法殊ニ世ニ稱セラル門人北野由岐左衛門
其後ヲ嗣ク曾孫小出廣太郎目下米國留
學中

以上長十郎が文化ニ貢献セシ事績顯著ナ
リト認ム